

神戸高等商業学校卒業生の進路状況

－神戸一中出身者の進路選択－

発表者：湯田拓史（神戸女子大学非常勤）

はじめに

本発表は、神戸大学の前身である官立神戸高等商業学校（以下、神戸高等商業学校とする）の卒業生のうち、兵庫県立第一神戸中学校（以下、神戸一中とする）出身者の進路状況を追跡するものである。

神戸一中を事例とした研究は、旧制中学研究会（研究代表者：中村隆文）による個票データを基にしたデータベース作成と分析がある。分析からは、神戸一中生の進学率が高かったことと、明治から大正へと時期を経るにつれ農業層以外の層で、生徒の出自が成績や進学におよぼす影響が小さくなっていったことを指摘している⁽¹⁾。この結果を踏まえつつ、神戸一中卒業生で、実業界を目指し官立神戸高等商業学校へ進学した者の属性と進路選択の特徴を明らかにする。さらに、卒業後の勤務地を検証することで、戦前六大都市である神戸市と大阪市の都市化と実業エリートたちの進路状況との関係を考察する。卒業生たちが東京へ進出するコースをとったのか、それとも勤務地として阪神地区を選んだのかを阪神地区の産業構造の変化に留意しながら検証する。

分析対象は、1907（明治 40）年卒業の第 1 回卒業生から 1932（昭和 7）年卒業の第 26 回卒業生までであり、『神戸高等商業学校一覧』と『神戸商業大学一覧』、神戸一中のデータベースから該当する生徒を抽出し検証する。主として、神戸高等商業学校の資料からは神戸一中出身者数と進路状況を確認し、出自や中学時代の成績については神戸一中データベ

ースから検証する。

神戸高等商業学校での神戸一中出身者の位置

神戸高等商業学校における神戸一中出身者の占める人数と割合は、表 1 のとおりである。

表 1 卒業生における神戸一中出身者の数と割合

	卒業生総数	一中出身者(人)	割合
1	92	6	6.5%
2	142	4	2.8%
3	101	4	4.0%
4	107	6	5.6%
5	108	6	5.6%
6	128	5	3.9%
7	123	8	6.5%
8	122	8	6.6%
9	117	9	7.7%
10	121	10	8.3%
11	142	4	2.8%
12	133	5	3.8%
13	139	5	3.6%
14	140	6	4.3%
15	162	17	10.5%
16	230	19	8.3%
17	203	22	10.8%
18	233	24	10.3%
19	237	19	8.0%
20	245	19	7.8%
21	261	21	8.0%
22	268	18	6.7%
23	265	17	6.4%
24	200	14	7.0%
25	196	15	7.7%
26	203	16	7.9%

註：『神戸高等商業学校一覧』各年度より算出した。

第 15 回卒業生（1922（大正 11）年卒業生）からは、毎年 20 人前後、割合にして 10% 前後を占めていた。神戸高等商業学校卒業生総数 4034 人中、7.6% にあたる 307 人が神戸一中出身者であり、出身中学校別の卒業生数が多い学校の一つであった。

神戸一中出身者の特徴

神戸一中出身者の検証には、神戸一中の個

票データを基に、旧制中学研究会が作成したデータベースを活用する。(以下、割愛する)
阪神地区の都市化と実業エリートの動向

神戸高等商業学校における神戸一中出身者の卒業後の勤務先は、以下の通りである。

表2 高等商業学校卒業者のうち神戸一中出身者の勤務先

昭和8年3月時点の勤務地		(人)	(割合)
京阪神 155人	大阪府	68	50.5%
	神戸市	72	
	兵庫県南東部(阪神間)	8	
	上記以外の兵庫県	5	
	京都府	2	
関東 25人	東京市	23	8.1%
	横浜市	2	
その他の府県 16人	名古屋市	4	5.2%
	その他	12	
外国 (植民地含む) 26人	中国	11	8.5%
	朝鮮	3	
	台湾	0	
	東南アジア	3	
	欧州	3	
	米国	4	
	その他	2	
不明		62	20.2%
物故者		23	7.4%
総計		307	

『神戸商業大学一覧』(昭和8年)より作成した。

表2から、半数が阪神地区を勤務先にした。東京へ進出する者と外国へ進出した者の数は、ほぼ同じで約8%であった。表3は、第1回卒業から第26回卒業までの神戸高等商業学校の卒業生全体の職業別進路状況である。全卒業生の60%にあたる2,421人が「会社及商店員」であり、内訳は主として「銀行」「貿易」「製造」が占めていた。

港湾都市であり、さらに造船業や製鉄業などの工業都市として発展しつつあった神戸市と、商業都市であった大阪市で構成された阪神地区に位置する神戸高等商業学校の神戸一中出身者たちは、地元に着するコースを選択していた。このことは、大正から昭和初期までに、「中央-地方」の二元的構図ではとらえられない、「中央」である首都圏とは別に求心力をもった都市圏が成立していたことを示すものであると考える。

表3 神戸高等商業学校卒業生の進路 (昭和6年時点)

		計
会社及商店員	計	2421
	内 銀行	473
	信託	43
	貿易	432
	鉄道	59
	海運	169
	保険	150
	製造	481
	鉱業	77
	倉庫	38
	新聞、出版	49
	その他	450
自家営業者	計	361
	内 貿易	40
	海運	9
	製造	49
	計理士	9
	弁護士	2
	その他	252
官吏		47
公吏		20
学校職員	計	225
	内 大学	15
	専門学校	24
	その他学校	186
右ノ外職業ニ属セサルモノ	計	88
	内 大学其他ノ在学生	64
	外国留学	6
	幹部候補生	18
事故未就職者及未詳者		578
死亡者		294
計		4034

『神戸商業大学学校一覧』(昭和6年)の「卒業生職業別」

付記:

分析の詳細は、当日配布の資料に譲る。

本研究は、神戸大学百年史編集室の収蔵資料と、旧制中学研究会(代表者:中村隆文)が作成した神戸一中のデータベースをもって作成した。関係者各位に感謝いたします。

¹ 井上義和・岡本未央・橘佳江・中村隆文「旧制中学校における内部限定メリトクラシー」『日本教育社会学会第57回大会発表原稿』2005年。